

# 「北九州市日常生活圏域ニーズ調査」調査結果（要約）

## 第1章 調査の概要

### 1. 調査の目的

高齢者の心身の状況や置かれている環境、介護や支援の必要性など、地域における課題やニーズを把握し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、今後の高齢者福祉施策の推進に役立てることを目的として実施した。

なお、この調査は「次期（第6期）介護保険事業計画」策定への活用のため、厚生労働省が全国の市町村に実施を求めている調査である。

### 2. 調査対象者

平成25年11月1日時点で介護保険の要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の市民の中から無作為抽出した25,000人。

### 3. 調査の内容

厚生労働省が示している『「日常生活圏域ニーズ調査」調査票』の項目を使用。

「家族や生活の状況」「運動・外出」「転倒」「口腔・栄養」「物忘れ」「日常生活」「社会参加」「健康」についてたずねた。

### 4. 調査方法

郵送により調査票を配布し、回答後に郵送により返送する郵送法。

### 5. 調査実施期間

平成26年1月20日（月）～2月14日（金）

### 6. 回収状況

配布数	回収数	回収率
25,000件	16,235件	64.9%

### 7. 日常生活圏域

日常生活圏域とは、住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件や人口、交通事情、その他既存施設やサービスの整備状況を踏まえ設定されている区域であり、北九州市においては以下の24圏域が設定されている。

※ 日常生活圏域の詳細は最終頁を参照

## 第2章 「評価項目」別の結果

(N=16, 235)

### 1. 生活機能全般の状況

表1に示した20の設問により、虚弱による生活機能低下のリスクについて評価を行った結果、リスクがあることを示す「該当者」の割合は5.0%となっている。

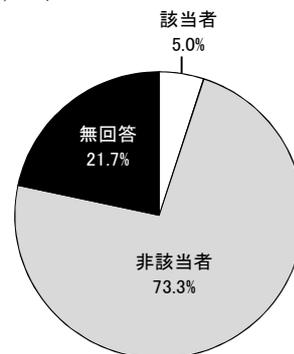


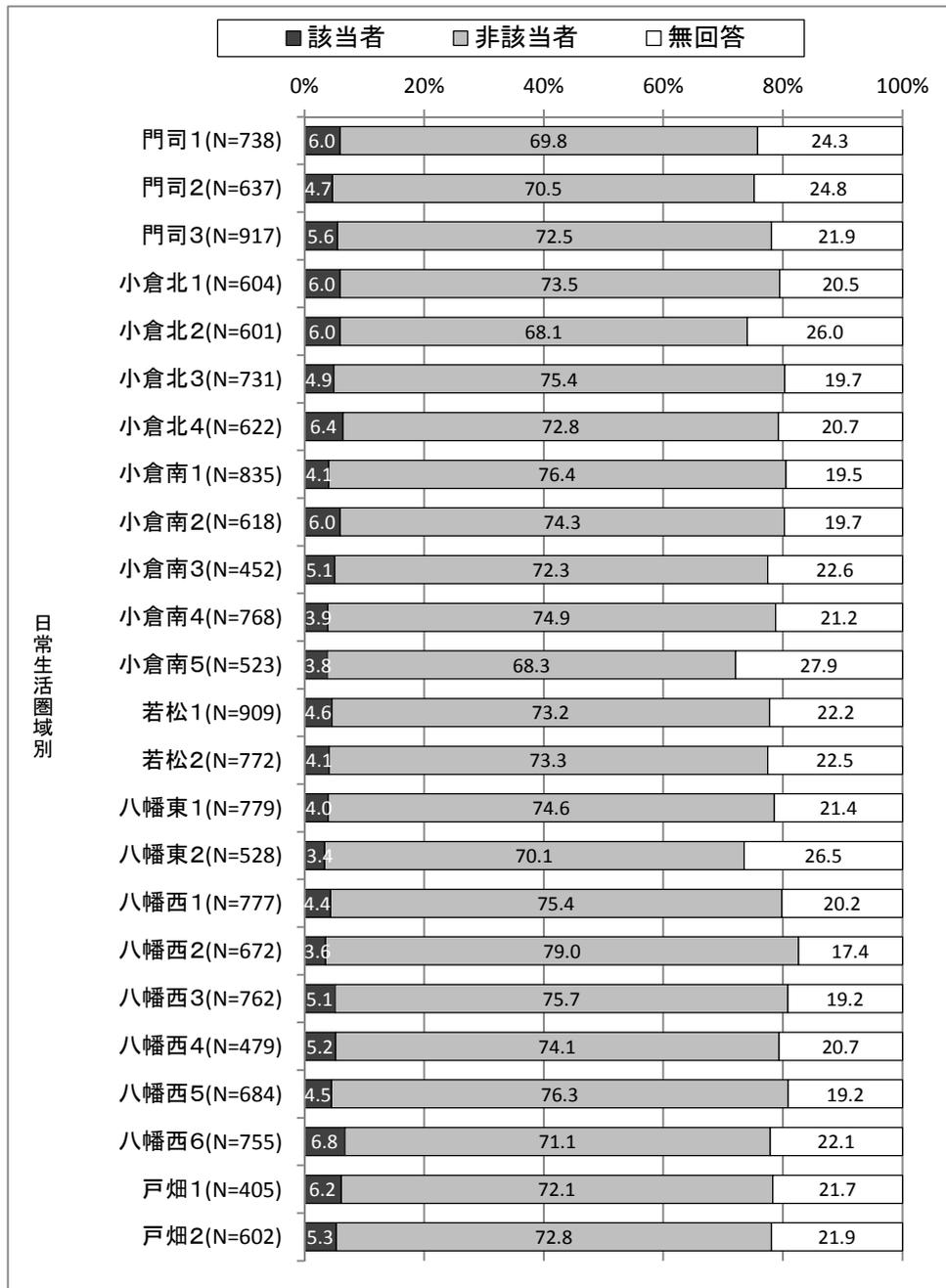
表1 評価に用いた設問と評価基準（生活機能全般の状況）

設問		配点	評価基準
問2-Q1.	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	いいえ(1点)	10点以上が リスク該当者
問2-Q2.	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	いいえ(1点)	
問2-Q3.	15分位続けて歩いていますか	いいえ(1点)	
問2-Q5.	週に1回以上は外出していますか	いいえ(1点)	
問2-Q6.	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	はい(1点)	
問3-Q1.	この1年間に転んだことがありますか	はい(1点)	
問3-Q2.	転倒に対する不安は大きいですか	はい(1点)	
問4-Q1.	6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	はい(1点)	
問4-Q2.	身長・体重	BMI 18.5未満(1点)	
問4-Q3.	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい(1点)	
問4-Q4.	お茶や汁物等でむせることがありますか	はい(1点)	
問4-Q5.	口の渇きが気になりますか	はい(1点)	
問5-Q1.	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	はい(1点)	
問5-Q2.	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	いいえ(1点)	
問5-Q3.	今日が何月何日かわからない時がありますか	はい(1点)	
問6-Q1.	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)	できるだけしていない・ できない(1点)	
問6-Q2.	日用品の買物をしていますか	できるだけしていない・ できない(1点)	
問6-Q5.	預貯金の出し入れをしていますか	できるだけしていない・ できない(1点)	
問7-Q5.	友人の家を訪ねていますか	いいえ(1点)	
問7-Q6.	家族や友人の相談にのっていますか	いいえ(1点)	

※BMI = 体重 ÷ (身長 × 身長)

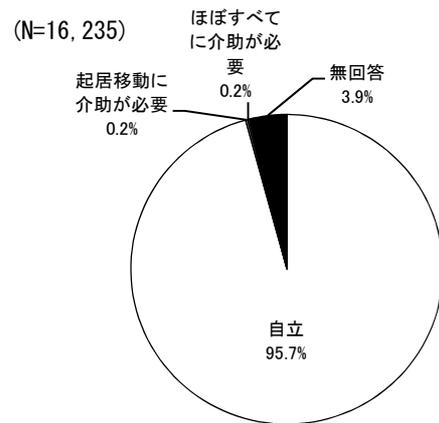
体重はキログラム単位、身長はメートル単位で計算。

図1 生活機能全般の状況（日常生活圏域別）



## 2. 日常生活動作（ADL）

表2に示した10の設問により、日常生活を送るために必要な様々な基本動作や活動の能力（ADL）について評価を行った結果、「自立」の割合が95.7%を占め、「起居移動に介助が必要」と「ほぼすべてに介助が必要」がそれぞれ0.2%となっている。

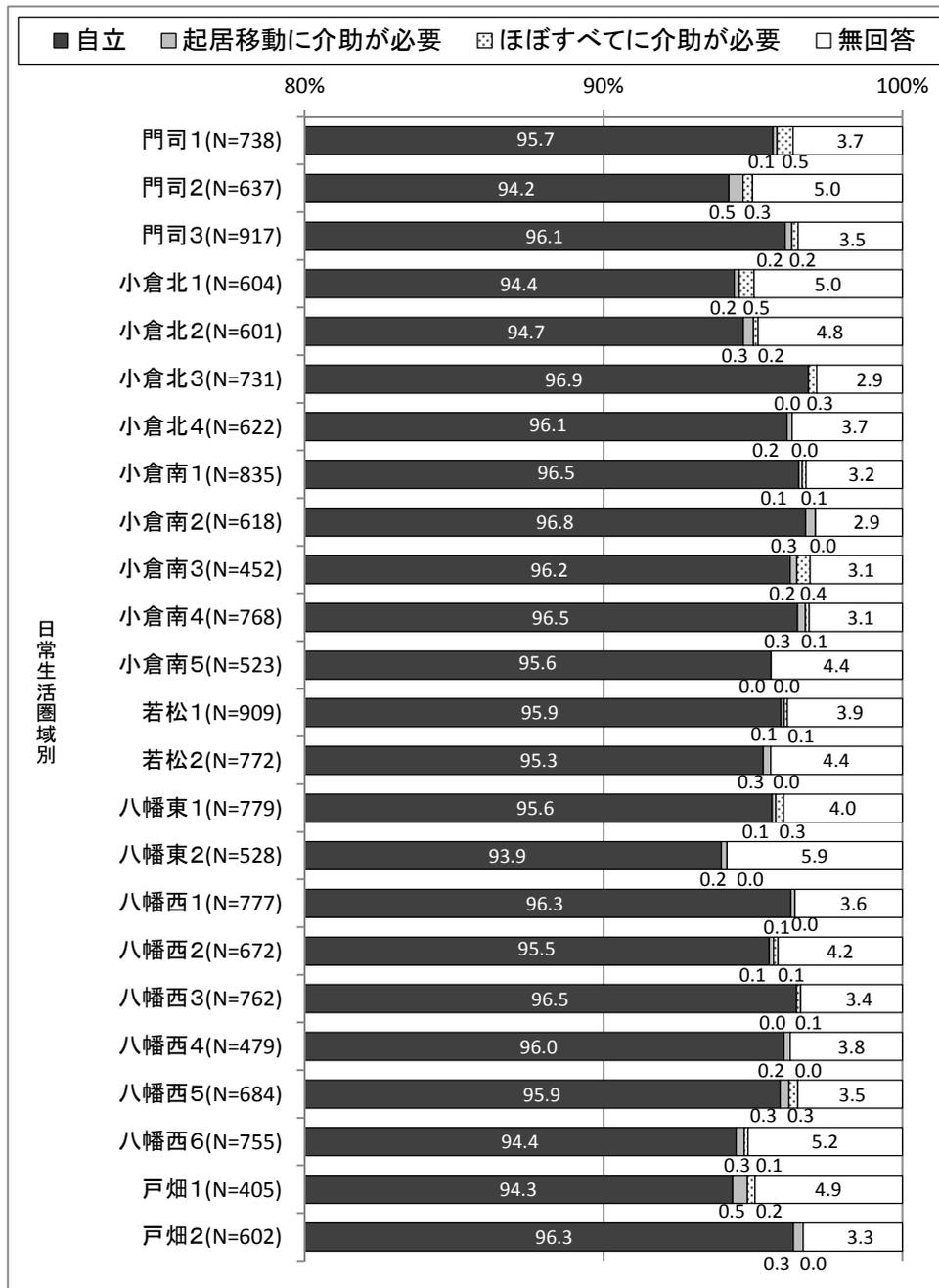


※ ADL（日常生活動作）とは、日常生活を送る上で必要な、食事や排泄、整容、移動、入浴等の基本的な動作をさす。

表2 評価に用いた設問と評価基準（ADL）

設問		配点		評価基準
問6-Q6.	食事は自分で食べられますか	できる	10点	・「自立」 65点～100点  ・「起居移動に介助が必要」 45点～60点  ・「ほぼすべてに介助が必要」 40点以下
		一部介助(おかずを切ってもらなど)があればできる	5点	
		できない	0点	
問6-Q7.	寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか	受けない	15点	
		一部介助があればできる	10点	
		全面的な介助が必要 (問6Q8の回答が「できる」「支えが必要」の場合)	5点	
		全面的な介助が必要 (問6Q8の回答が「できない」の場合)	0点	
問6-Q9.	自分で洗面や歯磨きができますか	できる	5点	
		一部介助があればできる、できない	0点	
問6-Q10.	自分でトイレができますか	できる	10点	
		一部介助(他人に支えてもらう)があればできる	5点	
		できない	0点	
問6-Q11.	自分で入浴ができますか	できる	5点	
		一部介助(他人に支えてもらう)があればできる、できない	0点	
問6-Q12.	50m以上歩けますか	できる	15点	
		一部介助(他人に支えてもらう)があればできる	10点	
		できない	0点	
問6-Q13.	階段を昇り降りできますか	できる	10点	
		介助があればできる	5点	
		できない	0点	
問6-Q14.	自分で着替えができますか	できる	10点	
		介助があればできる	5点	
		できない	0点	
問6-Q15.	大便の失敗がありますか	ない	10点	
		ときどきある	5点	
		よくある	0点	
問6-Q16.	尿もれや尿失禁がありますか	ない	10点	
		ときどきある	5点	
		よくある	0点	

図2 日常生活動作（ADL）（日常生活圏域別）



### 3. 手段的日常生活動作（IADL）

表3に示した5つの設問により、活動的な日常生活を送るための動作（IADL）について評価を行った結果、能力が「高い」人の割合が85.5%を占め、「やや低い」が6.4%、「低い」が2.9%となっている。

※ IADL（手段的日常生活動作）とは、日常生活を送る上で必要な動作のうち、外出や買い物など、日常生活動作（ADL）より複雑で高次の動作をさす。

(N=16,235)

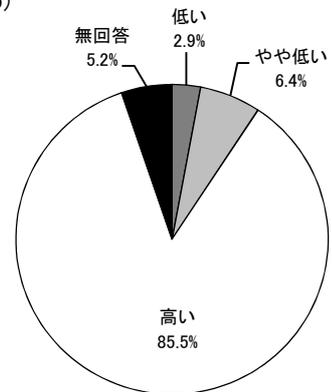
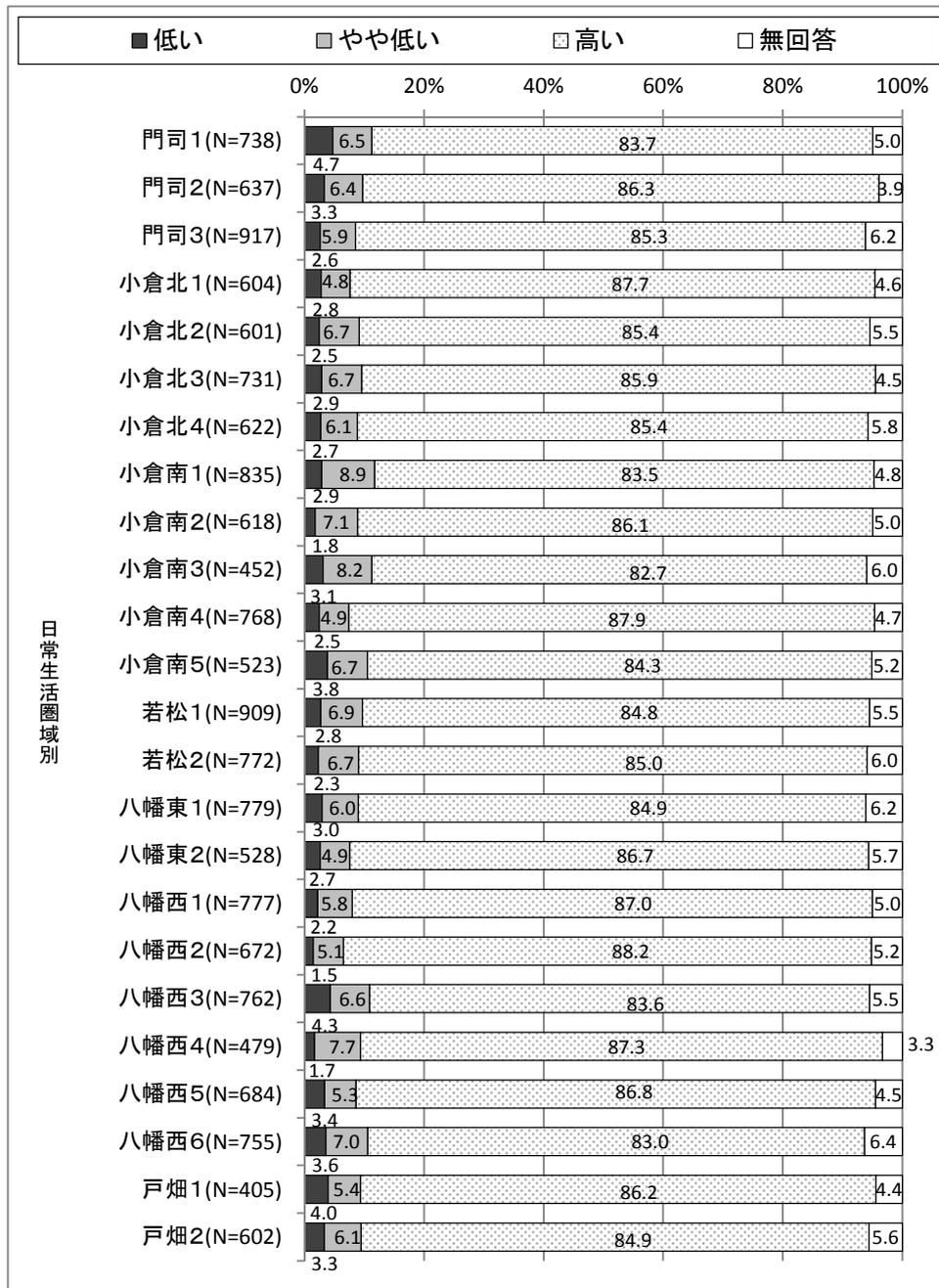


表3 評価に用いた設問と評価基準（IADL）

設問		配点	評価基準
問6-Q1.	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)	できるし、している(1点)	「低い」3点以下 「やや低い」4点 「高い」5点
問6-Q2.	日用品の買物をしていますか	できるし、している(1点)	
問6-Q3.	自分で食事の用意をしていますか	できるし、している(1点)	
問6-Q4.	請求書の支払いをしていますか	できるし、している(1点)	
問6-Q5.	預貯金の出し入れをしていますか	できるし、している(1点)	

図3 手段の日常生活動作（IADL）（日常生活圏域別）



#### 4. 認知機能障害程度（CPS）

図4-1に示した評価基準により、認知機能の障害程度について評価を行った結果、障害がないことを示す「0レベル」の人は77.7%を占め、軽度以上の障害があるおそれのある人（2～6レベル）の割合は4.7%となっている。

(N=16,235)

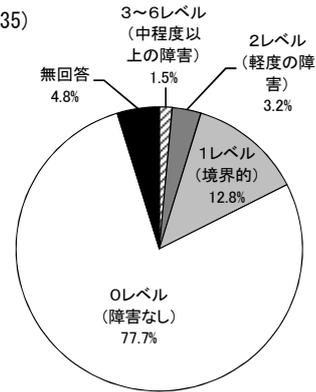


図4-1 認知機能障害程度（CPS）の評価に用いた設問と評価基準

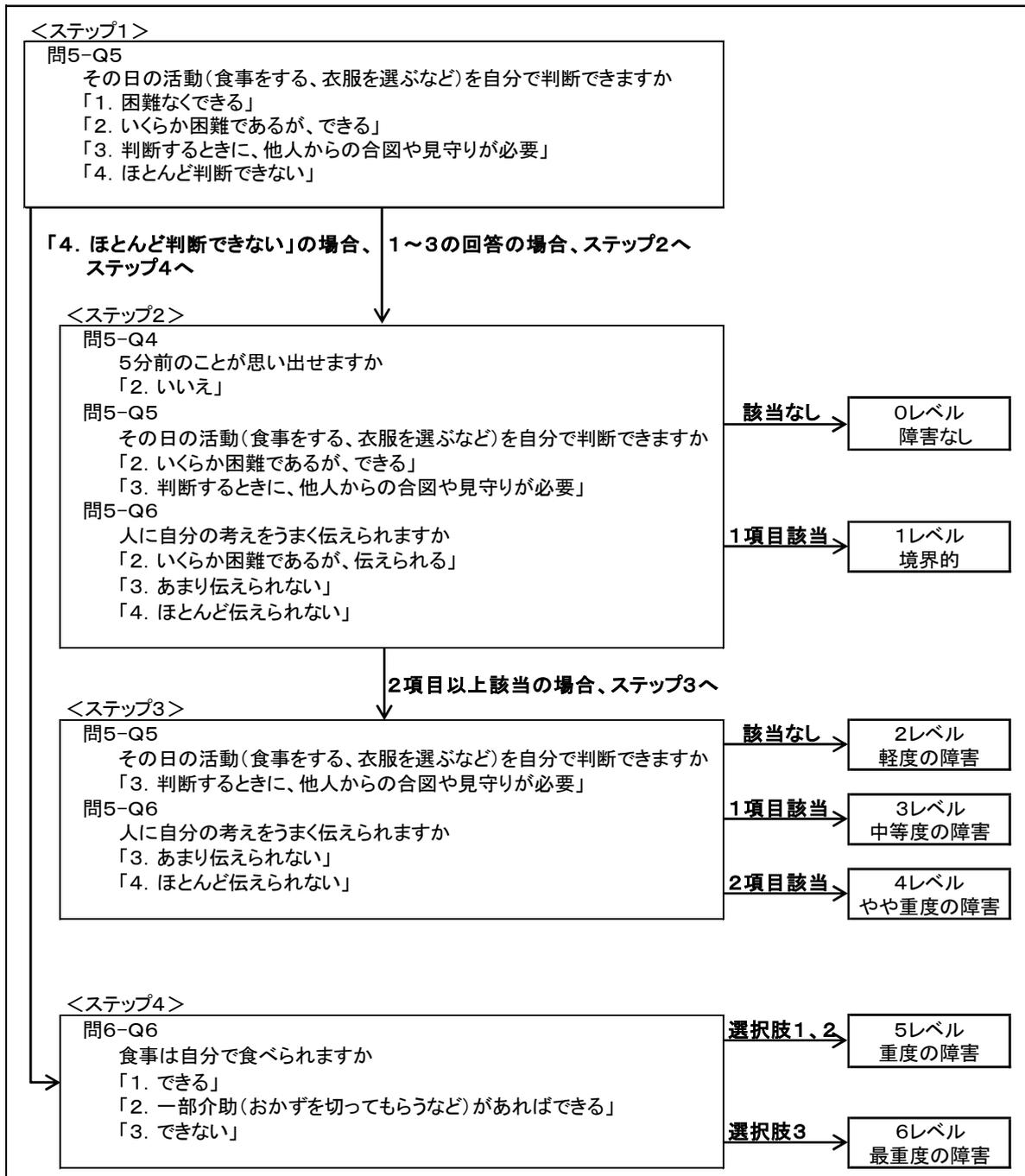
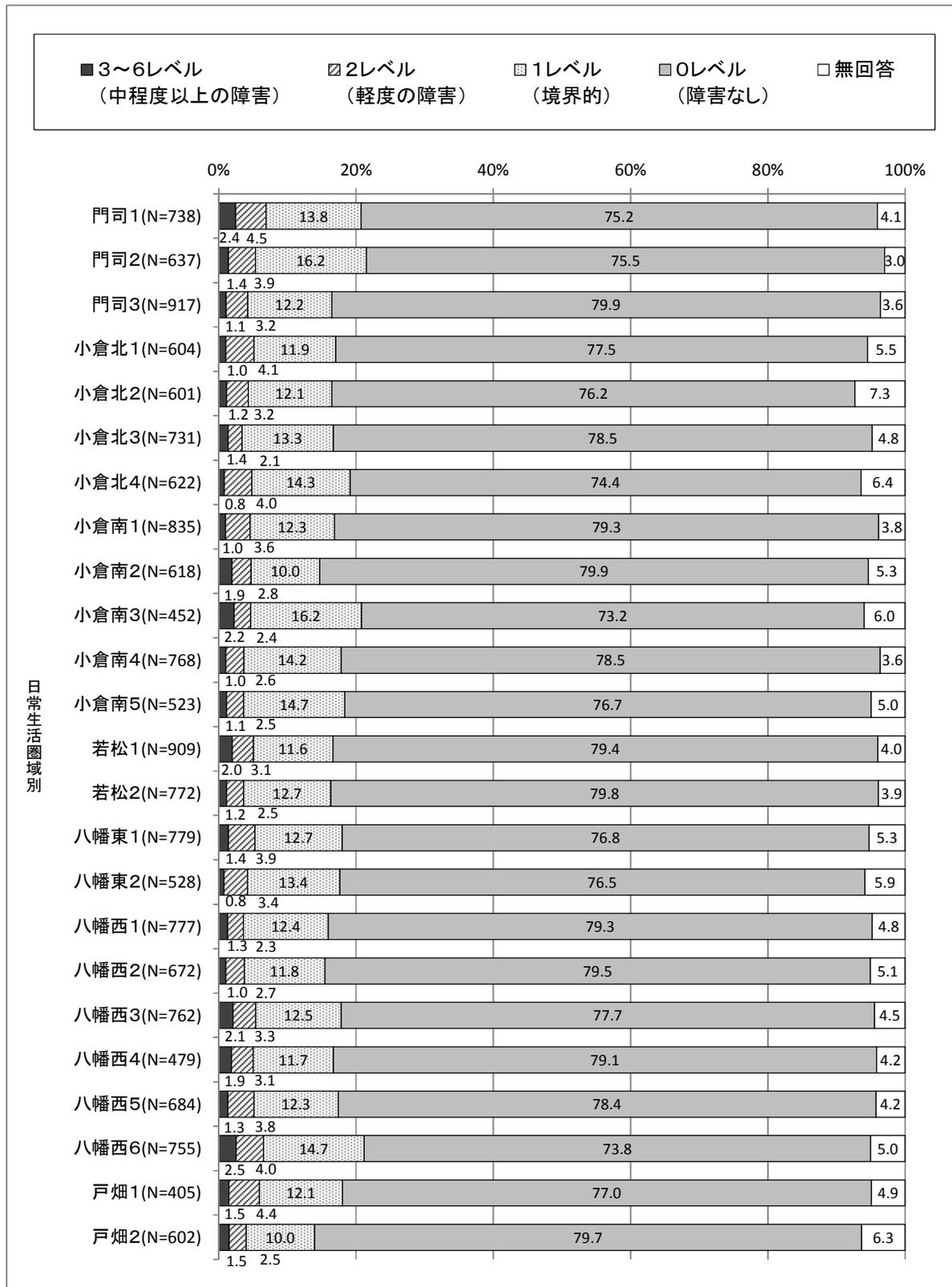


図 4-2 認知機能障害程度（CPS）（日常生活圏域別）

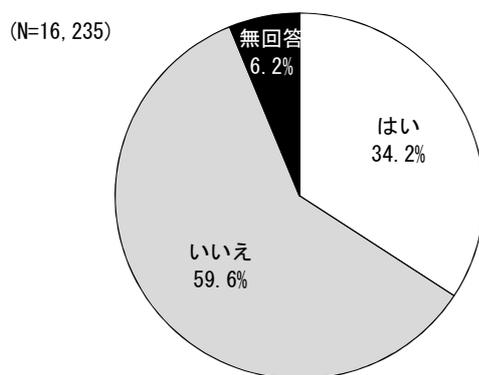


### 第3章 「個別設問」別の結果

#### 1. 交流の場への参加状況

問 2-Q10. お住まいの地域において、気軽に集い、おしゃべりなどをするような交流の場などに参加することがありますか

交流の場への参加については、「はい」の割合が34.2%となっている。



問 2-Q10-1. (参加している方のみ)  
どのような場所に通っていますか

通っている場所については、「市民センター」の割合が50.0%で最も高く、次いで「集会所・いこいの家などの、地域のコミュニティ施設」が28.9%となっている。

図 5-1 交流の場

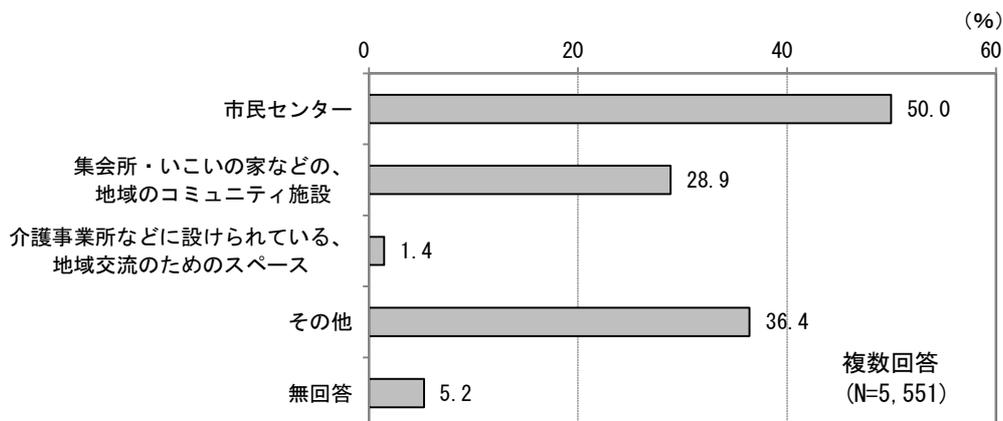
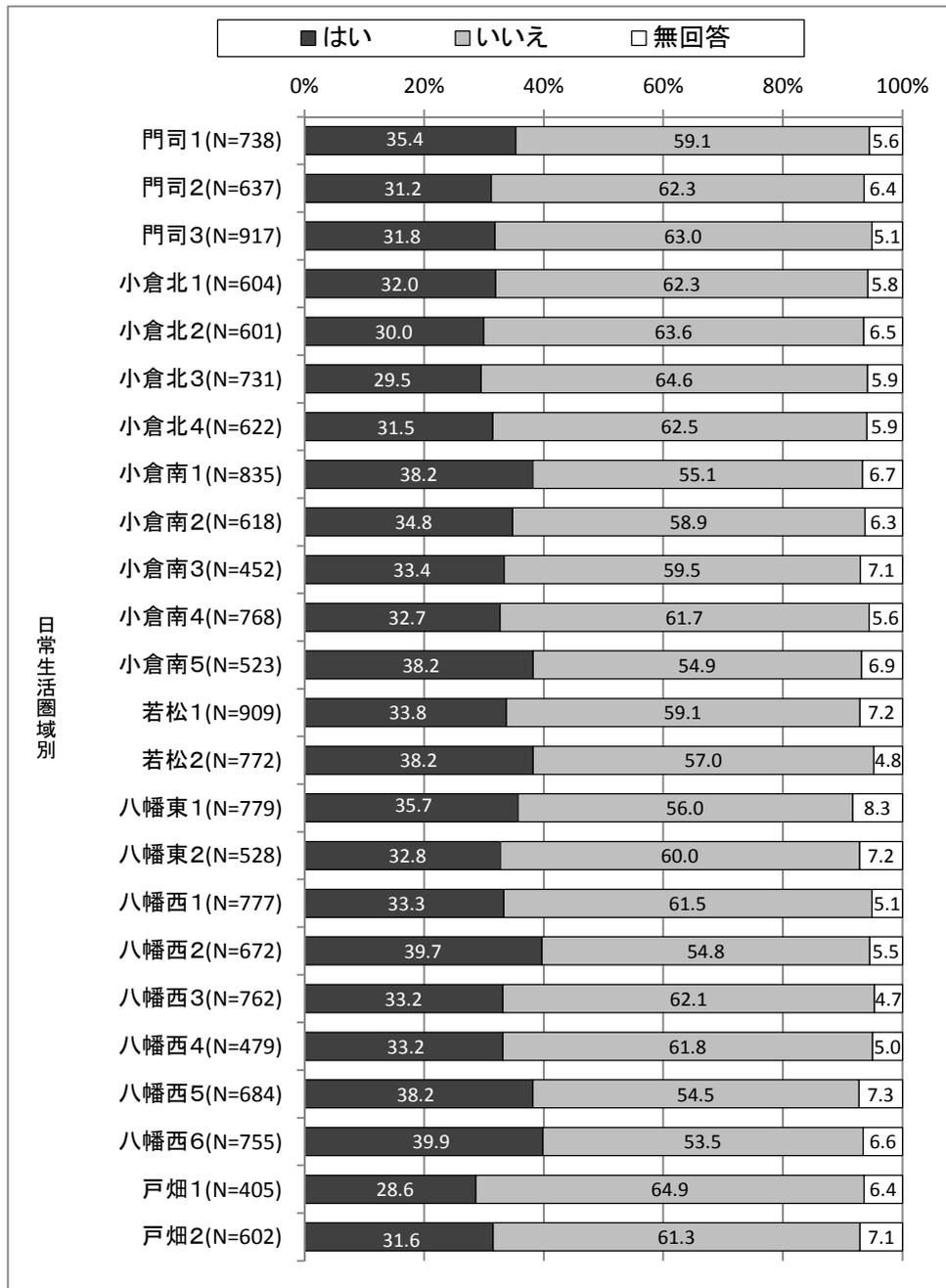


図 5-2 交流の場への参加（日常生活圏域別）



## 2. 生活支援サービスの利用状況

問 6-Q18. 民間企業やNPO・ボランティアなどが実施している、以下の生活支援サービスを利用していますか

生活支援サービスを利用している人の割合は3.4%となっている。

生活支援サービスを利用している人について、どのようなサービスを利用しているかをみると、「掃除」の割合が38.9%で最も高く、次いで「ごみ出し」が33.9%、「買い物」が16.5%などとなっている。

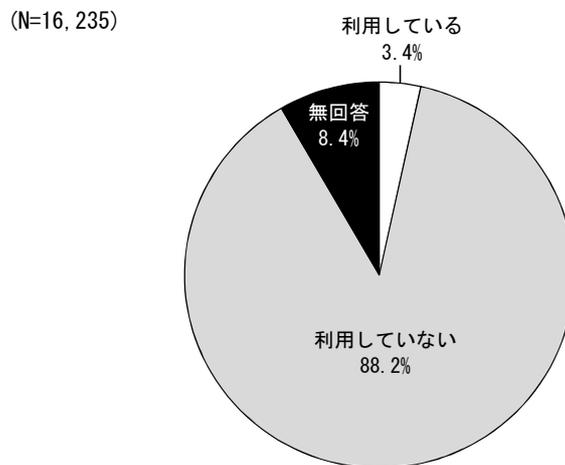
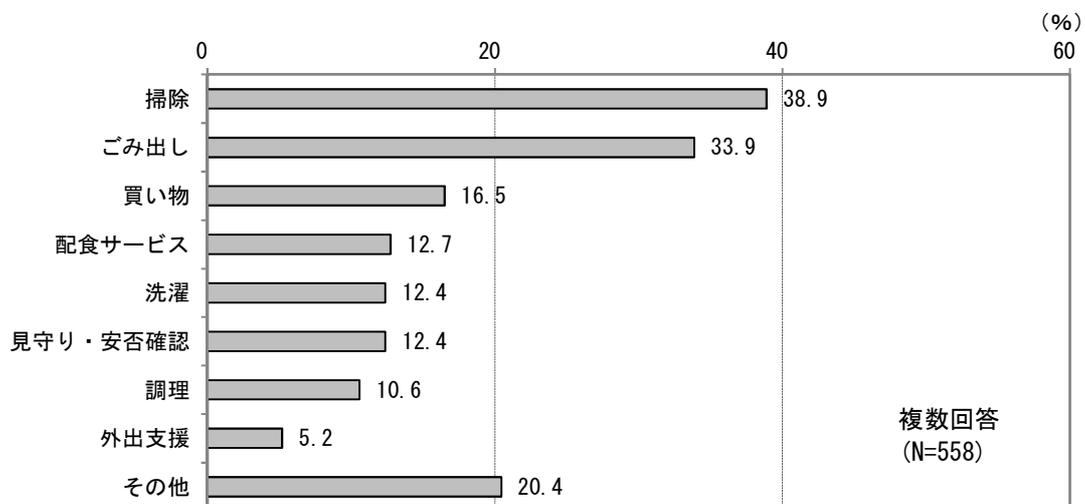


図 6-1 利用しているサービス



問 6-Q18-1. 利用しているサービス以外で、利用したいものがありますか

利用しているサービス以外で利用したいものがある人の割合は 7.1%となっている。利用したいものがある人について、どのようなサービスを利用したいかをみると、「掃除」の割合が 44.5%で最も高く、次いで「見守り・安否確認」17.5%、「ごみ出し」15.2%、「配食サービス」15.0%、「買い物」14.5%などとなっている。

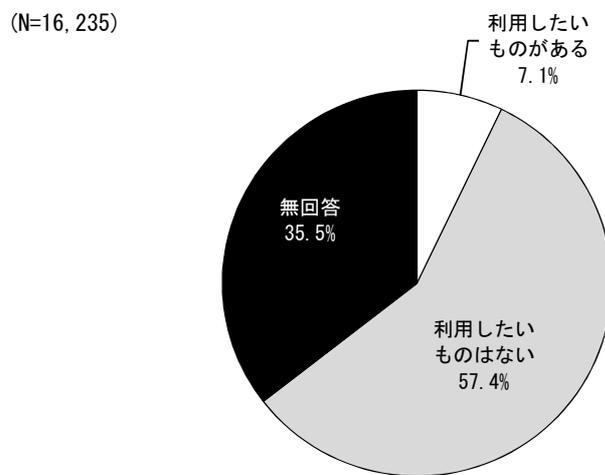
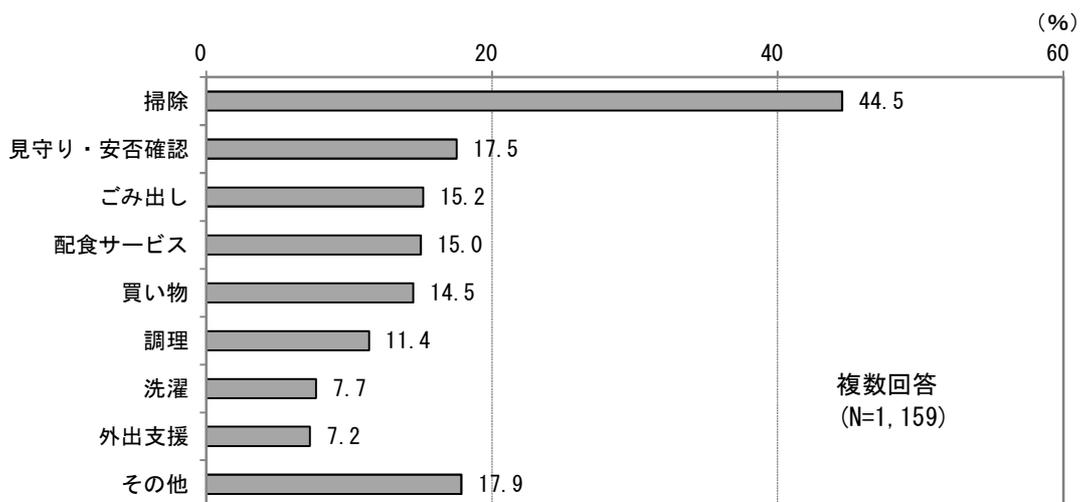


図 6-2 利用したいサービス



【参考】北九州市の日常生活圏域（24圏域）

日常生活圏域	小学校区（目安）
門司1	伊川、大積、白野江、柄杓田、松ヶ江北、松ヶ江南
門司2	小森江東、田野浦、港が丘、門司中央、門司海青
門司3	小森江西、大里東、大里南、大里柳、西門司、萩ヶ丘、藤松
小倉北1	足原、霧丘（小倉南区を除く）、桜丘、寿山、富野
小倉北2	足立、貴船、小倉中央、三郎丸、中島、藍島、城野（小倉南区を除く）
小倉北3	到津、井堀、北小倉、中井、西小倉、日明、高見（八幡東区を除く）
小倉北4	泉台、今町、清水、南丘（小倉南区を除く）、南小倉
小倉南1	朽網、曾根、曾根東、田原、貴、東朽網
小倉南2	葛原、高蔵、沼、湯川、吉田
小倉南3	横代、若園、城野（小倉北区を除く）、北方、霧丘（小倉北区を除く）
小倉南4	徳力、広徳、企救丘、志井、守恒、長尾、南丘（小倉北区を除く）
小倉南5	長行、合馬、市丸、新道寺、すがお
若松1	赤崎、小石、修多羅、深町、古前、若松中央、藤木
若松2	青葉、江川、鴨生田、高須、花房、二島、光貞（八幡西区を除く）
八幡東1	祝町、枝光、高槻、高見（小倉北区を除く）、槻田、ひびきが丘
八幡東2	大蔵、河内、皿倉、花尾（八幡西区を除く）、八幡、黒崎中央（八幡西区を除く）
八幡西1	赤坂、浅川、医生丘、折尾東、本城、光貞（若松区を除く）
八幡西2	永犬丸、永犬丸西、折尾西、則松、八枝
八幡西3	青山、穴生、熊西、竹末、萩原、引野
八幡西4	黒畑、黒崎中央（八幡東区を除く）、筒井、鳴水、花尾（八幡東区を除く）
八幡西5	大原、上津役、塔野、中尾、八児
八幡西6	池田、香月、楠橋、木屋瀬、千代、星ヶ丘
戸畑1	あやめが丘、戸畑中央、中原
戸畑2	一枝、大谷、鞆ヶ谷、天籟寺、牧山